

平成30年度第1回高知市地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：平成30年9月6日（木） 9：30～12：00

場所：高知県民文化ホール4階 第7・8多目的室

出席：委員12名中、10名が出席（代理出席2名含む）

議事：(1) 産業振興計画関連 年間スケジュールについて

(2) 地域アクションプランについて

第3期高知市地域アクションプランの進捗状況等について

(3) 産業成長戦略について

1) 移住促進の取り組みについて

2) 自然・体験型観光キャンペーンについて

議事(1)(2)(3)について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）

議事については、すべて了承された。

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）

(1) 産業振興計画関連 年間スケジュールについて

意見交換等、特になし。

(2) 地域アクションプランについて

(No.19 春野地区の農産物（トマト等）の付加価値向上)

（西込委員）

ベルガモットは栽培が難しいフルーツだが、生育状況は良い方向へ向かっている。大手の視察も定期的であり、全国的にも注目、期待されていることから、地域の活性化につながることを期待している。

また、春野商工会の脱会者が多くなる等厳しい状況の中で、トマト等を栽培する大きな事業所や生産者にも会員になってもらっている。今後は春野の農業活性化のためにも、農協等と連携を深めていく必要があると考えている。

(No.7 新ショウガの生産振興)

（宮脇委員）

農業大学校に若手農家を連れて行き一緒に話をする事で、生徒の新規就農への不安を無くし、スムーズに就農出来るように取り組んでいる。

ショウガについては、一次加工所が老朽化しているため、移転及び新築を考えている。

（島田委員）

新ショウガは全国的にも高品質との評価をもらっているが、多くは手作業であり、人の確保が課題となっている。

ショウガのニーズは年々高まっているが、生産面積、販売額等は頭打ちになっている。大きな要因としては、土壌消毒剤の問題や種芋の価格高騰等がある。この他にも、生産面積拡大に伴う

農業用水の確保も今まで以上に課題になってくると思う。

(No. 8 ユズを核とした中山間農業の活性化)

(宮脇委員)

ユズオイルについては、大手取引先 1 社と取引が継続しており、他社からも引き合いが来ている。今後は製造稼働時間を延長する予定だが、生産量に合わせたユズ皮の確保、保管用冷凍庫の確保が課題となってくる。

また、搾汁残渣から抽出される蒸留水については、製造が順調に進めば、関西圏のホテルでのプレゼンの機会をいただいているので販路の拡大に取り組んでいく。

生産現場では高齢化や傾斜地での栽培ということもあり、ドローンによる消毒、防除体制を整えるように関係会社と協議を重ねている。

現在、ユズや四方竹の放棄地は 40 アール以上であれば貸借出来るが、農園の維持という観点からも、小規模からでも貸借が出来るように考えてもらいたい。

(No. 1 キュウリの生産販売対策の強化による産地振興)

(島田委員)

農家就農者数や農家面積は微減であり、病気等の課題もある。その一方で、若手を中心とした研修生の受け入れや、新規就農者の増加によって活性化もしてきている。今後は、高齢化に伴う離農によって放置されるハウス等施設を新規就農者へどう引き継ぐか、また、集出荷場等の施設の作業員確保が課題となってくる。

(No. 18 イタドリの外商推進による中山間地域の振興)

(吉野委員)

イタドリの生産体制は徐々に整ってきており、平成 31 年には現在の生産量の約 2 倍以上になると考えられるため、順次販路の拡大を目指していく。また、栄養成分の分析を県立大に依頼しており、機能性を確認した上で食材への活用などを進めていきたい。

また、首都圏のいくつかのホテルからイタドリの提供依頼の話が来ている。徐々に認知度が上がって来ているので、他県に負けられないように高知がナンバーワンでトップを切っていきたい。

(小型船底引きについて)

(久保委員)

以前は小型底引きの操業開始前に県が資源状況把握のための試験操業を行っていたが、平成 29 年度で終了した。これがなければその年の魚の配置や量、育ち方が分からないのでぜひ再開してもらいたい。また、近年は天候不順で出漁日数が減少していることから、1 月～3 月の休業期間にも操業できるようにしてもらいたい。

(No. 24 近隣地域等との連携による滞在型・体験型観光の推進)

(澤田委員)

来年度の自然・体験型観光キャンペーンでは工石山のトレッキング等、高知市内の観光素材を

探していかなければならないが、例えば近隣の嶺北や須崎等に素材があるので、基本的に1泊を高知市周辺で、もう1泊を高知市、という形で取り組んでいけばと考えている。

また、観光協会が進めている修学旅行のプランとして、防災体験プラン、防災まち歩きプランの計画があり、関係機関とともにプランの精度を高めていくように考えている。

そして、スポーツ合宿の助成はすでに行っているが、新たに大学の文化系サークルをターゲットにした合宿への助成も考えている。

(No. 25 本家よさこいのブランド力確立とよさこい文化の継承・発展)

(泉委員)

「人のために」、「人を元気にしたい」という想いで作られてきた祭りであり、大事にしたい大切な文化である。その文化を勉強する機会がなければ、ブランド化や文化の継承は難しい。100回大会のビジョンに向けて、もっと知っていただくことも必要だと思う。

(岡崎座長)

2020年の東京オリンピック・パラリンピックによさこいを入れ込む取り組みを進めている。2020年の原宿スーパーよさこいで盛大にやろうとも考えたが、オリンピック・パラリンピックと時期が重なり大きくできない。2019年の原宿スーパーよさこいに大きく打ち込む必要がある。

(工業関係)

(西内委員)

ネックとなっている部分を機械化することで、農業改革・革命のようなものにつながるのではないか。工業会の会員企業で新たな装置の開発にも取り組み、成果が出れば、県外に向けての販路拡大につながると期待している。

(全体を通して)

(宮脇委員)

豊洲市場が開設されるが、市長にはトップセールスで豊洲市場への強い推進をお願いしたい。

(久保委員代理)

高知商工会議所の卸商業部会において、卸機能を生かした県内外への総合的な売り込みに取り組んでいこうという意見も出ており、今後行政と話をしていければ。

(3) 産業成長戦略について

意見交換等、特になし。

(以上)